



地域日本語支援ニュース こだま 第 383 号

2020.6.25

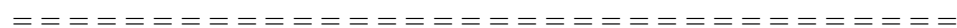


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■日本で生きる：青森市から■

青森市から新山和子さんに、新型コロナの影響による現状と、今改めて思うことをご報告いただきます。新山さんは、地域日本語ボランティアとして、また、青森大学で国際交流センターの留学生アドバイザーおよび日本語非常勤講師として等、多岐にわたって活躍中です。

.....

北の街から

日本語学習支援「青い森」

代表 新山和子

◆北の街から「こんにちは～～！！」

現在、青森市内のリンゴ園では、リンゴ、マルメロ、ブルーベリー、ドウ

ダンツツジがお互いのソーシャル・ディスタンシングを保ちながら慎ましく可憐な花を咲かせています。

世界中が新型コロナの影響で激震の今日この頃、青森県も例外ではありません。

私たちの日本語学習支援「青い森」は2007年に多文化共生事業である「留学生と一般市民との交流会」として発足し、その後「求められれば何でもお手伝いする」という柔軟な姿勢を大切にしながら活動を続けてきました。現在その柱となっている二つの小さな活動「みんなで学びあう日本語教室」も「食を通しての多文化共生事業・ランチ教室」も8月まで自粛して9月からの開催にしています。青森県西部にある弘前市で活動している「弘前日本語クラブ」も10月から活動開始です。

◆八戸市ではオンラインによる支援活動

何もかもが自粛で停止しているかのような中、東部にある八戸市の「NPO法人みちのく国際日本語教育センター・MIJEC」は5月12日からオンライン授業を始めたそうで、受講希望者は技能実習生や外国語指導助手やビジネスマンなど、予想をはるかに上回る人数だと聞いています。MIJECは「子ども支援」「技能研修生指導」など青森県内で最も積極的に日本語支援をしています。

◆文明の利器と対面の関わり合いと「両輪」の支援を大切に

この喜ばしい活動ニュースを聞いて、私たち「青い森」も背中を押され今だから何かできることはないかと真剣に考え始めています。日本語学習も文明の利器を使用して、より多くの日本語学習を必要としている皆さんと繋がることが求められているのかもしれませんが、ただ、言葉の習得には対面での関わり合いが重要だし必要だという意識も忘れないようにしながら、文明の利器の便利さに助けてもらう賢さも身に付け「両輪」での支援ができればと思います。

◆大学との連携でボランティアの学び、そしてより良い支援を目指す

現在、青森県は日本語教育が遅れていると言われていますが、新しい動き

もあります。

青森市にある青森大学では2019年4月から「日本語教員養成プログラム（副専攻）」を開始し、本格的に日本語教育に関する専門的知識が学べるようになりました。また、青森大学と公益財団法人青森県国際交流協会が連携し、地域で生活する外国人に寄り添い、文化の違いを尊重しながら、日本語の支援を行う「日本語指導サポーター」を養成する講座も始まりました。この講座では、県内各地から日本語ボランティアに関心のある皆さんが集まり、支援に必要な基礎知識や実践的な教え方を学んでいます。3年で100名の日本語指導サポーターに登録してもらうことを目標に、県内各地で日本語サポーターと学習者のマッチングを行っていきます。今年度はコロナの影響で開始が遅れましたが、大学のプログラムは5月9日から、青森県国際交流協会主催の養成講座は6月6日から開始されました。

全国的にみると一歩も二歩も遅れてしまった感がある青森県の日本語教育ですが、これから、講座修了者の皆さんが地域の外国籍の皆さんと一緒に学び、遊び、暮らしに寄り添い「青森に来て良かった！！」「青森に来てくれて有難う！！」と心から言い合えるような仲間作りに力を発揮してくれると期待しています。「青森大好き人」を増やすためにみんなで顔晴りたい（『頑張りたい』ではなく）と思っています。

公益財団法人青森県国際交流協会

日本語学習支援「青い森」

<https://www.kokusai-koryu.jp/grouplist/>
